リスク対策.com
危機管理とBCPの専門メディア

リスク対策.COM 連載

企業向け危機管理訓練シナリオ

動き続く現場で火が出たら × 119 番通報 × 指揮命令系統

～避難訓練では見えない「初動の現実」～

今回の背景ニュース

・この 2～3 週間、日本各地で火災・爆発事故が相次いでいます。

・12 月 1 日｜北海道・室蘭市：製鉄所の熱風炉が爆発・火災。消防車 14 台が出動し、約 10 時間後に鎮火（けが人なし）。

・11 月 28 日｜山口県：化学工場の製造ラインで深夜に火災。黒煙が上がり、出火原因と設備被害を調査中。

・11 月 18 日｜大分県・佐賀関地区：大規模火災で 170 棟以上が焼失し、175 人が避難。市街地を巻き込む深刻な被害となりました

※「正しく恐れて、正しく備える」ために、自社の判断基準を点検していただきます

❶今回のシナリオ

『あなたが緊急対応の総務部長（自衛消防の統括責任者）として判断する訓練を開始します。今回の訓練は、最も判断が難しい「最初の 3 分」に焦点を当てます。工場長不在、現場職長との連絡もつかない中で、あなたは即断を迫られます。

【14 時 22 分】あなたが現場に到着。炎が見えるが、まだ小さい。消火器で消せるかもしれない。しかし黒煙が出始めており、拡大の可能性があります。』

【状況設定】
・あなたの会社：製造ライン 3 系統が稼働する工場
（製造、物流、介護、医療、インフラ、小売など）一部はオンラインで業務もある
・時刻：午後 2 時 20 分（14 時 20 分）

＜判断材料＞
・炎はまだ小さい（消火器で消せる可能性あり）
・黒煙が出始めている（拡大するかもしれない）
・製造ライン 3 系統が稼働中、従業員 30 名が作業中
・ライン停止に 30 秒かかる
・工場長は外出中で連絡がつかない

＜判断の 3 つの視点＞
・時間軸　：『30 秒の迷い』が、何を引き起こすか
・優先順位　：「現場を守る（初期消火）」と「命を守る（即避難）」、どちらを優先するか
・実行可能性：「避難」の一言で、従業員は統一行動が取れるか

時系列

時刻	社内状況	現場の状況	不明な情報
14 時 20 分	稼働ラインで煙を確認 総務部へ第一報告	煙が少し出ている	・火災が設備故障か ・報告すべきか
14 時 21 分 (発覚時)	炎を確認（まだ小さい） 黒煙が少し出始める	消火器で消せるかもしれない	・初期消火か避難か ・ライン停止すべきか
14 時 22 分 （1 分後）	総務部長が現場到着 工場長は外出中	黒煙が拡大している	・指揮者は誰か ・判断基準はどこか
14 時 23 分	「避難！」と指示	従業員がバラバラに動く	・電源を切るべきか ・全員避難したか
14 時 25 分	駐車場に避難	人数確認ができない	・誰が何人出勤しているか ・在宅勤務者は何人か

❷緊急時対応の判断と対応策を検討してください

質問１：第一報から現場到着までの 30 秒（遠隔での初動指示）

製造ライン中央で煙が発生。第一報を受けた総務部長は急いで現場に向かいました。
しかし現在、社内にはまだ何の指示も出ていません。
この 30 秒、あなたなら何を最初に指示しますか？

優先順位	指示内容 （誰に何を指示しますか）	判断理由 （なぜ今決めるのか）	指示・判断者 （誰が）
1			
2			
3			

選択肢例
・避難の社内放送
・119 番通報
・自衛消防隊出動指示

選択肢例
・ライン停止
・その他（　　）
→ この指示ひとつで、30 分後の結末は大きく変わり

質問２：現場到着後の 30 秒（視界不良の中での即断）

あなたが現場に到着すると、煙が濃くなり視界が悪化。複数の作業者が迷い・混乱しています。
あなたは 30 秒で、最優先する判断は何ですか？

優先順位	判断内容 （何を決めるか）	判断理由 （なぜ今決めるのか）	判断者 （誰が決める）
1			
2			
3			

選択肢例
・初期消火継続
・直ちに撤退
・119 番への追加連絡

選択肢例
・不明者確認
・操業停止指示
・その他（　　）
→ この 30 秒間の判断が、被害規模を決めます。

❸備えの違いで何が変わるか

状況	従来型（訓練重視）	火災対応型（現場重視）	備えなし
初動判断	「消防隊長が指示」	「第一発見者が即判断」の権限	判断基準なし、混乱
避難の行動	「避難」の一言	「電源そのまま避難」など具体的	バラバラに動く
撤退基準	「天井に火が回ったら」 明	明確な基準を共有	基準なし、避難遅れ
指揮者不在	訓練通りの役割	代行者と権限を明確化	組織が機能しない
人数確認	出勤簿で確認	リアルタイム把握の仕組み	確認できない

※火災への特別対応

今回の訓練は「最初の 3 分」に焦点を当てましたが、火災対応はその後も続きます。時間軸ごとに、必要な対応を整理してください。

【初動の 30 分～1 時間】最初の 3 分を超えて必要になる対応

・完全な点呼実施 ⇒ 在宅勤務者・外出者を含む全員の安否確認

・防火扉・防火シャッターの確認 ⇒ 延焼防止設備が機能しているか

・エレベーター閉じ込め者の救出 ⇒ 停電時の対応、救出手順

・他エリアへの情報伝達 ⇒ 食堂・会議室・別館への避難指示

・消防到着時の誘導 ⇒ 火元・危険物・消火設備の情報提供

・重要書類・サーバーの保護 ⇒ データのバックアップ、金庫の搬出

【その後の 72 時間】事業継続と信頼回復

・事業継続判断 ⇒ いつ操業再開するか、代替生産体制をどう構築するか

・取引先対応 ⇒ 納期遅延の説明、信頼回復のコミュニケーション

・原因究明と再発防止 ⇒ 消防・労基署への報告、設備点検体制の見直し

・従業員のメンタルケア ⇒ 火災を目撃した従業員への心理的サポート

・保険対応 ⇒ 損害査定、保険金請求、財務的影響の最小化

火災は『初動の 3 分』だけでなく「その後の対応」も企業の存続を左右します。訓練は 3 分でも、備えるべき事項は広範囲に及ぶことを認識してください。

このシナリオの経営インパクト

最初の『**30 秒の迷い**』が、**「けが人ゼロ」と「重大災害」**を分け、事業継続の可否を決定します。

火災対応では、初動判断の遅れが、**「人的被害」、「設備損失・操業停止」、「納期遅延・企業信用失墜」**へと連鎖し、短期間で企業体力を奪います。

● 短期的影響（最初の数時間～1 日）

・初動の混乱により避難が遅れ、負傷者が発生するリスク

・ライン停止による **生産・物流の停止と納期への影響**

・火災情報の伝達遅延により、社内外で混乱が拡大

・SNS・外部媒体での誤情報拡散による 信用低下

● 中期的影響（数日～1 週間）

・設備損傷による復旧遅延、代替生産体制の構築コスト増大

・取引先対応の混乱による **失注のリスク**

・社内での不信感・心理的不安の増幅

● 長期的影響（1 ヶ月～）

・顧客信頼の低下・ブランド毀損

・財務負担増大・保険適用の判定遅延

・安全文化の欠如として評価され、**採用力や事業継続力に影響**

👉 初動の 30 秒が「制御下」か「混乱」かの分岐点になる。

📋 明日からできる 3 つのこと（ＰｄＣａをｐＤｃＡへ：小さく始める → すぐ回す → 継続する）

1. **「初動 30 秒の判断基準」を 1 枚にまとめる**
   - 初期消火と即避難の判断基準（黒煙・視界・温度）
   - 指揮者不在時の「代行権限」明確化
   - 119 通報と指揮命令系統の流れを可視化
2. **「避難の一言で動ける」仕組みを作る**
   - 避難指示に使う **具体的な指示語（電源そのまま避難等）**
   - 不明者確認と点呼の方法（紙／アプリ）
3. **『優先復旧ライン』を決める**
   - 停止できるライン／絶対に止められないラインを整理
   - 代替稼働計画と外部への説明テンプレートを準備

☞ **迷いをなくし、最初の 30 秒で全員が同じ方向を見る状態を作る。**

❹自社での実践可能性を検証

現状点検チェック（火災初動対応・人員リスク）

- ☑ 初期消火・即避難の 判断基準が明文化 されている
- ☑ 指揮者不在時の 代行権限と役割 が定義されている
- ☑ 避難指示語が 具体的に決められ標準化 されている
- ☑ 不明者確認の仕組み（リアルタイム点呼）がある
- ☑ 停止判断基準と『優先復旧ライン』が整理されている
- ☑ 社外（消防・取引先）への 連絡手順 が定義されている

明日から開始する改善アクション

1._____
2. _____
3. _____

経営層への提案事項

投資が必要だが実施すべき対策を 1 つ挙げてください：

提案内容：_____

投資規模：_____

効果・ROI：_____

リスク対策.com
危機管理とＢＣＰの専門メディア

作成：八重澤晴信、企画：リスク対策.com

著作権表記：「© 2025 八重澤晴信・リスク対策.com 無断転載・複製を禁じます」